

大規模公共事業 再評価調書

事業名	道路改築事業		補助・単独	担当部課名	県土整備部 道路建設課												
路線名等	一般国道106号	地区名	築川道路		市町村	盛岡市											
〔事業根拠法令等 道路法 〕																	
事業概要	<p>(1) 事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般国道106号は、三陸沿岸地域の中心都市である宮古市と県都盛岡市をはじめ県中央部とを結ぶ主要幹線道路であり、東北縦貫自動車と三陸縦貫自動車道とを結び、国土の循環型ネットワークを形成する重要路線である。平成7年度に地域高規格道路¹の整備区間に指定され、盛岡秋田道路と一体となり、宮古・盛岡・秋田の地域連携軸を形成するとともに、沿岸部と東北新幹線や北上川流域テクノポリスとの連絡強化により、地域の産業、経済及び観光の発展を支援する路線として早急な整備が期待されている。 計画区間は、現道が急峻な谷地形の河川沿いにあり、地形的制約から幅員狭小・線形不良から交通事故が発生すると共に、落石等の危険区間でもあるなど、抜本的な改良を求められていたことから、当該地域に計画されている築川ダム建設事業の付替道路事業等と併せて、地域高規格道路として効率的かつ効果的に整備し、交通の安全確保と円滑化を図り、沿岸部と内陸部との交流強化により地域の活性化を支援するものである。 <p>1：地域高規格道路は、全国的な交流ネットワークを形成する高規格幹線道路と一体的に機能し、地域において広域的な交流・連携を支える幹線道路ネットワークを構築する骨格的な道路。</p>																
	<p>(2) 事業内容</p> <p>全体計画延長L=7,000m、車道幅員W=7.0m、全体幅員14.5～15.5m 改良工L=3,703m、トンネル工L=1,007m（N=4箇所）、橋梁工L=2,290m（N=15橋）</p>																
	<p>(3) 整備目標等</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域高規格道路整備事業 供用延長2.0Km （岩手県総合計画における主要な事業の平成17年度目標値 国・県（平成15年度迄実績100.0%）） 当該工区における時間短縮：約4分 																
	事業着手	H8年度	事業計画期	H8	～	H22 (H19)	再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間)	用地着手	H9年度	工事着手	H10年度						
事業費	当初計画総事業費 H8 (うち用地費)	再評価時総事業費 A H17 (うち用地費)	事業費の状況 [百万円]						進捗率 F = E/A								
			H8～ H15年 B	H16年 C	H17年 D	投資事業費 E = B+C+D	財源										
	12,500.0 (512.5)	15,000.0 (845.8)	11,230.0 (809.3)	980.0 (9.5)	100.0 (27.0)	12,310.0 (845.8)	国庫 6,770.5 県 5,539.5	82.1%									
事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況																
	<p>ア 整備効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 本道路は築川ダムの付替道路であり、全線完成後に供用するため供用区間は無いが、進捗率は事業費ベースで約82%と概ね順調である。 																
	<p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業期間の延伸は、本県公共事業費の削減もあり、事業費確保及び当初年次計画に沿った事業展開が困難となり、事業年次計画の見直しが必要となったことによる。 当初計画より時間を要したものの、工事は順調に進む見込みであることから、平成22年度に供用を図る予定である。 <p>事業を阻害する要因はあるが、一定の期間等を要することにより解決できる見通しがあり、竣工の見通しがあることから、中項目評価を「b」とした。</p>																
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a</td> <td>・</td> <td>b</td> <td>・</td> <td>c</td> </tr> </table>										中項目評価	a	・	b	・	c	
中項目評価	a	・	b	・	c												
(2) 事業計画の変更の有無及び内容																	
<ul style="list-style-type: none"> 事業費は、起点部の関連する都南川目道路（国交省事業）と事業調整を、終点部の現道摺り付けに計画調整を要し、また、地形地質などの現地精査及び環境配慮に伴う構造物等の詳細設計の結果により増加しているが、事業計画を大幅に変更することはない。 <p>事業計画の変更はあるが、その内容が大幅でないことから、中項目評価を「b」とした。</p>																	
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a</td> <td>・</td> <td>b</td> <td>・</td> <td>c</td> </tr> </table>										中項目評価	a	・	b	・	c		
中項目評価	a	・	b	・	c												
<p>中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価を「A」とした。</p>																	
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>・</td> <td>A</td> <td>・</td> <td>B</td> <td>・</td> <td>C</td> </tr> </table>										評価	A	・	A	・	B	・	C
評価	A	・	A	・	B	・	C										

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・高規格幹線道路から市町村道に至る道路ネットワークの形成が求められている。

イ 本県内の状況

・内陸部と沿岸部を結ぶ幹線道路を始め、生活道路や歩道等の整備など、更なる道路の整備を求められている。
 ・当該国道の整備については、特に沿岸部市町村から整備促進を求める要望が多い。

ウ 施工地域における状況

・当該道路の整備促進について、関係市町村より要望がある。(旧宮古市・旧新里村ほか)

(参考) 予算の動向

・本県公共事業費の削減もあり、道路改築事業予算は平成10年度をピークとして毎年減少している。
 ・H18国概算要望シーリング (国道+地方道)対前年0.75~1.0

当該事業に関する過去3年間の予算状況

年度	H15	H16	H17
事業費(百万円)	6,960	6,760	6,280
対前年比	76.0%	97.1%	92.9%

全国又は本県において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないことから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価	(a)	b	c
-------	-----	---	---

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時 評点(A)	再評価時 評点(B)	増減 (B)-(A)	備考
必要性	車道等幅員	2	0 (現況6.0m)	0 (現況6.0m)	0	・混雑度1.0以上 (国採択基準)
	歩道設置の必要性	1	1 (未整備)	1 (未整備)	0	
	設計速度	3	3 (速度差20km/h)	3 (速度差20km/h)	0	
	混雑度	1	0 (0.80)	0 (0.80)	0	
	定時性	2	2 (速度差13.3km/h)	2 (速度差13.3km/h)	0	
	事故率	1	0 (34.4)	0 (34.4)	0	
	過疎地域等の振興	10	3 (山村)	3 (山村)	0	
	計	20	9	9	0	
重要性	総合計画等の位置付け	20	20 (3項目)	20 (3項目)	0	
	国の「客観的指標」に該当する項目数	10	7 (5項目)	7 (5項目)	0	
	計	30	27	27	0	
緊急性	関連事業の有無	5	5 (有)	5 (有)	0	
	冠水対策、主要渋滞ポイント、老朽橋、交通不能区間、通行危険箇所等	5	5 (有)	5 (有)	0	
	10Km以内に迂回道路	5	5 (無)	5 (無)	0	
	計	15	15	15	0	
効率性	費用便益比(B/C)	30	22 (2.0)	18 (1.5)	-4	・B/C 1.0 (国採択基準)
熟度	用地取得の進捗状況 (着手時は地元協力)	3	3 (地元協力有)	3 (100.0%)	0	
	地元要望	2	2 (有)	2 (有)	0	
	計	5	5	5	0	
計		100	78	74	-4	(再評価時/採択時) 95%

社会
経済
情勢
等
の
変
化

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:道路投資の評価に関する指針(案)第1編、第2編 (単位:百万円)

区 分		事業着手時 (基準年: H8)	再評価時 (基準年: H17)
費用項目	改築費	10,315.4	16,944.0
	維持費	674.9	854.1
	総費用(C)	10,990.3	17,798.1
便益項目	時間短縮便益	12,260.9	15,836.7
	走行経費減少便益	2,121.5	2,739.1
	事故減少便益	638.2	821.5
	環境改善便益	30.4	38.3
	拡張便益	6,912.3	6,912.3
	総便益(B)	21,963.3	26,347.9
費用便益比(B/C)		2.0	1.5

費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

- ・当該道路については過疎地域ではないため、地域修正係数による修正費用便益を使用していない。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

下記の関連事業と一体的に整備することにより、効率的かつ効果的に整備が図られる。

- ・築川ダム建設事業(岩手県: H4~)
平成13年度に、県の公共事業再評価を受け「事業継続」と判断され、その後、利水計画の見直しに伴うダム高等の変更・コスト縮減計画等の見直しを行っている。
- ・都南川目道路(国交省: H9~)
築川道路に隣接し、地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」の一部として事業中である。
各評価指標の評定の合計が、事業着手時の90%以上であることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による環境保全区分 「B」「D」
- ・植物や県のレッドデータブックに登録されている種の状況、希少野生動植物の生息 あり。

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

・事業実施にあたり、ダム建設事業と併せて、専門家の助言を受けながら環境調査等を実施し、「築川ダム周辺環境調査検討委員会」及び「築川ダム周辺環境整備基本計画検討委員会」を設け、平成13年12月には「築川ダム周辺自然環境検討専門委員会」を設置し、自然との共生の方策を検討するなど、環境への影響が少なくなるよう配慮しながら事業を進めている。

・一方、景観についても、「築川ダム周辺環境整備検討委員会」において「景観形成検討部会」を設けて検討を行い、周辺景観との調和に配慮しながら事業を進めている。

・具体例: 希少植物の移植、地形改変を極力少なくするような構造物(橋梁・トンネルなど)、切土・盛土法面の在来種を基本とした緑化、周辺景観と調和するような構造物(9号橋ほか)、小動物脱出可能な斜路付き側溝設置、小動物移動路のカルバート設置、再生資材(砕石・アスファルト)の使用、排ガス対策及び低騒音型建設機械の使用など、約6千万円を見込んでいます。

自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評 価 (AA) . A . B . C

社会
経済
情勢
等
の
変
化

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

縮減額合計 C = 約1,675百万円

- ・ 橋梁上部工に耐候性鋼材を使用することにより、ライフサイクルコストを低減。
(縮減額 C = 約972百万円：一般鋼材 耐候性鋼材)
- ・ 新技術の採用及び橋梁計画等の見直しによるコスト縮減。
(縮減額 C = 約703百万円：生コン24N/mm²・鉄筋SD345 生コン40及び30N/mm²・鉄筋SD490、橋梁 補強土壁工など)

(2) 代替案立案の可能性

- ・ 事業費ベースで80%以上の進捗状況で、全線に渡り工事が進んでおり、現在、未着工は直轄権限代行事業の都南川目道路と関連のある起点部のみであることから、代替案立案の可能性は無い。

(1) 総合評価

対応方針案	事業継続	要検討	中止
(事業継続、見直し継続、休止、中止)			

○総合評価に係るコメント

・ 当該道路は、幅員狭小、線形不良の隘路区間となっており、交通事故が発生すると共に、落石等の危険区間でもあるなど、安全で円滑な交通に支障をきたしていることから、当該地区で事業中の築川ダム建設事業の付替国道補償工事等一体的に整備し、交通の安全確保と円滑化を図り、併せて沿岸部と内陸部の交流促進を事業目的としている。

・ 「事業の進捗状況等」については、現在、事業進捗率約82%であるなど、事業進捗は概ね順調であり、一定期間を要することにより竣工の見通しがあり、事業計画の大幅な変更はない。

・ 一方、「社会経済情勢等の変化」については、道路改築事業のあり方についての議論や見直しの検討がなく、評定合計が事業着手時点と大差なく、環境等への影響が少ないよう積極的に配慮して事業を進めている。

・ 以上により、大項目の評価が「A」、「AA」であることから、総合評価は「事業継続」とした。

(2) 要検討、中止の場合の対応

総合評価

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	道路改築事業		補助・単独	担当部課名	県土整備部 道路建設課
路線名等	一般国道106号	地区名	築川道路	市町村	盛岡市

1 現在までの事業の経緯等

平成6年12月 地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」が、計画路線に指定。
 平成7年8月 「宮古盛岡横断道路」の一部を構成する「築川道路」が、整備区間に指定。
 平成8年度 国庫補助事業による事業採択。

2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明

当該国道の整備については、特に沿岸部市町村から整備促進を求める要望が多い。
 一方、本県公共事業費の削減もあり、道路改築事業予算は平成10年度をピークとして毎年減少している。

(近年の要望状況)

旧・宮古市(平成16年9月16日)
 旧・新里村(平成16年9月16日)
 山田町(平成16年9月16日)
 宮古・盛岡・秋田間国道整備促進期成同盟会(平成16年10月14日)
 国道106号地域高規格道路整備促進期成同盟会(平成16年10月14日)

3 費用便益分析の詳細(算定方法、算出根拠等)

算出方法: 別添

算出根拠: 道路投資の評価に関する指針(案)第1編、第2編

(単位: 百万円)

区 分		事業着手時 (基準年: H8)	再評価時 (基準年: H17)
費用項目	改築費	10,315.4	16,944.0
	維持費	674.9	854.1
	総費用(C) +	10,990.3	17,798.1
便益項目	時間短縮便益	12,260.9	15,836.7
	走行経費減少便益	2,121.5	2,739.1
	事故減少便益	638.2	821.5
	環境改善便益	30.4	38.3
	拡張便益	6,912.3	6,912.3
	総便益(B) + + + +	21,963.3	26,347.9
費用便益比(B/C) /		2.0	1.5

改築費: 道路建設に要する費用を基準年における現在貨幣価値化したもの。

維持費: 道路の供用開始後40年間の維持管理費を基準年における現在貨幣価値化したもの。

時間短縮便益: 自動車に乗っていなければ生産活動を行うことによって生み出されるであろう価値(資源価値)、または自動車に乗っている時間を他の目的に使えるなら払ってもよいと思う金額(行動価値)を、道路の供用開始後40年間で基準年における現在貨幣価値化したもの。

走行経費減少便益: 燃料費、オイル費、タイヤ・チューブ費等の減少効果を、道路の供用開始後40年間で基準年における現在貨幣価値化したもの。

事故減少便益: 人身事故、物損事故、救急や事故処理などに伴う公的損害、および事故により発生する交通渋滞による損失の減少効果を、道路の供用開始後40年間で基準年における現在貨幣価値化したもの。

環境改善便益: 大気汚染、騒音及び地球温暖化の道路整備による環境改善効果を、道路の供用開始後40年間で基準年における現在貨幣価値化したもの。

拡張便益: 道路走行時の快適性、救急医療や消防等へのアクセス確保による緊急時に対する安心感などの効果を、基準年における現在貨幣価値化したもの。

4 環境対策の具体的内容

築川ダム周辺自然環境検討専門委員会

委員長 吉田岩手大学教授 他11名

主な提言

- ・地形改変が極力最小限となるように、主に構造物(トンネル・橋梁・擁壁)で道路を計画。
- ・付替道路により寸断される動物の移動路の代替施設として、エコロード(小動物移動路のカルバート、小動物脱出可能な斜路付き側溝等)を設置。
- ・いわてレッドデータブックに位置付けられている希少植物等の移植。
- ・道路法面については、在来種が自生しやすい種子を使用した緑化を行い、周辺環境との調和に努めている。
- ・工事車両による道路及び河川汚濁を防止するため、各現場にタイヤ洗浄装置及び沈砂池を設置。
- ・施工にあたっては、排ガス対策及び低騒音型建設機械の使用を基本としている。

これらに要する経費は、約6千万円を見込んでいる。

築川ダム周辺環境整備検討委員会

委員長 安藤岩手大学教授 他22名

主な提言内容

- ・ダム湖周辺の利活用に関する周辺環境整備基本計画を策定
- ・景観形成検討部会の設置

築川ダム周辺環境整備検討委員会 景観形成検討部会

委員長 安藤岩手大学教授 他4名

主な提言内容

- ・周囲の景観との調和に配慮した施設計画に努めている。(トンネル面壁や湖面橋となる国道9号橋のデザイン)

評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

費用対効果計算書

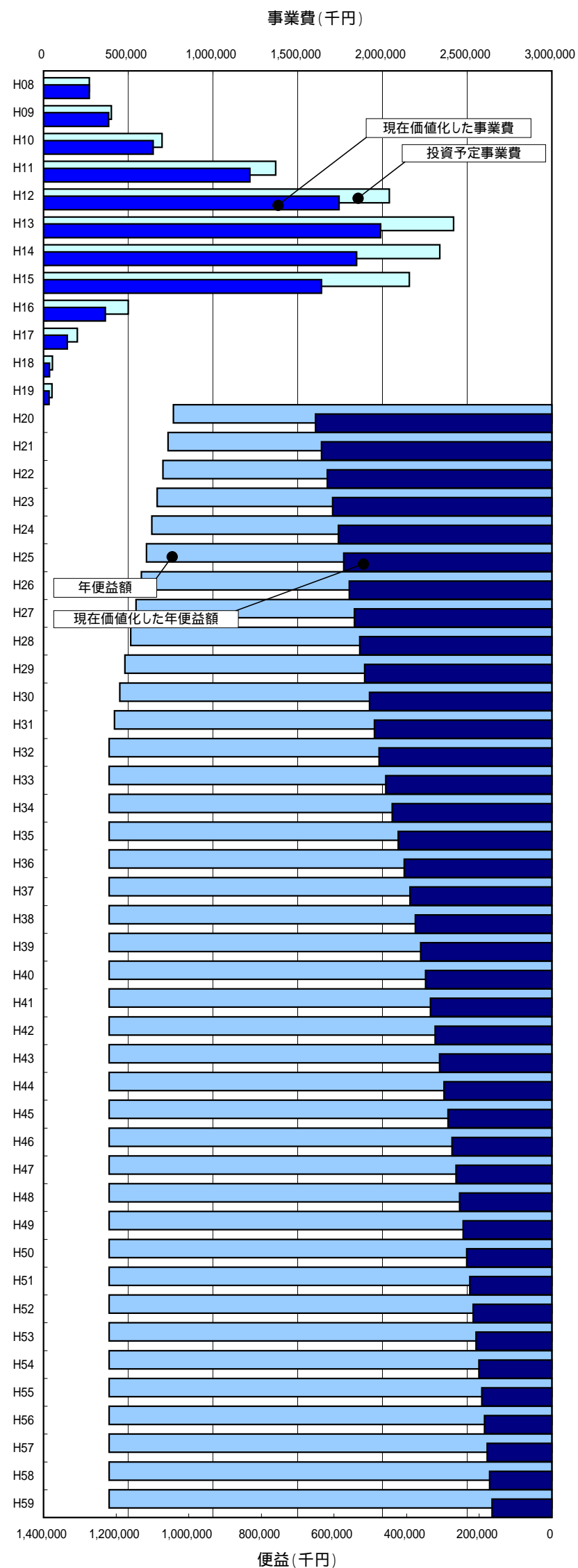
(平成8年度評価)

路線名: 一般国道106号

地区名: 築川道路

単位: 千円

期間	年度	現在価値割引率	便益		費用				
			便益額	現在価値	建設費		維持管理費		
					費用	現在価値	費用	現在価値	
整備期間	0	H08	1.00000			270,000	270,000		
	1	H09	0.96154			400,000	384,600		
	2	H10	0.92456			700,000	647,200		
	3	H11	0.88900			1,370,000	1,217,900		
	4	H12	0.85480			2,041,000	1,744,700		
	5	H13	0.82193			2,420,000	1,989,100		
	6	H14	0.79031			2,338,000	1,847,800		
	7	H15	0.75992			2,159,000	1,640,700		
	8	H16	0.73069			500,000	365,300		
	9	H17	0.70259			200,000	140,500		
	10	H18	0.67556			52,000	35,100		
	11	H19	0.64958			50,000	32,500		
施設完成後の評価期間 40年	12	H20	0.62460	1,042,200	651,000			52,500	32,800
	13	H21	0.60057	1,056,800	634,700			52,500	31,500
	14	H22	0.57748	1,071,200	618,600			52,500	30,300
	15	H23	0.55526	1,087,100	603,600			52,500	29,200
	16	H24	0.53391	1,101,500	588,100			52,500	28,000
	17	H25	0.51337	1,116,300	573,100			52,500	27,000
	18	H26	0.49363	1,130,800	558,200			52,500	25,900
	19	H27	0.47464	1,145,500	543,700			52,500	24,900
	20	H28	0.45639	1,159,900	529,400			52,500	24,000
	21	H29	0.43883	1,175,600	515,900			52,500	23,000
	22	H30	0.42196	1,189,900	502,100			52,500	22,200
	23	H31	0.40573	1,204,800	488,800			52,500	21,300
	24	H32	0.39012	1,219,400	475,700			52,500	20,500
	25	H33	0.37512	1,219,400	457,400			52,500	19,700
	26	H34	0.36069	1,219,400	439,800			52,500	18,900
	27	H35	0.34682	1,219,400	422,900			52,500	18,200
	28	H36	0.33348	1,219,400	406,600			52,500	17,500
	29	H37	0.32065	1,219,400	391,000			52,500	16,800
	30	H38	0.30832	1,219,400	376,000			52,500	16,200
	31	H39	0.29646	1,219,400	361,500			52,500	15,600
	32	H40	0.28506	1,219,400	347,600			52,500	15,000
	33	H41	0.27409	1,219,400	334,200			52,500	14,400
	34	H42	0.26355	1,219,400	321,400			52,500	13,800
	35	H43	0.25342	1,219,400	309,000			52,500	13,300
	36	H44	0.24367	1,219,400	297,100			52,500	12,800
	37	H45	0.23430	1,219,400	285,700			52,500	12,300
	38	H46	0.22529	1,219,400	274,700			52,500	11,800
	39	H47	0.21662	1,219,400	264,100			52,500	11,400
	40	H48	0.20829	1,219,400	254,000			52,500	10,900
	41	H49	0.20028	1,219,400	244,200			52,500	10,500
	42	H50	0.19257	1,219,400	234,800			52,500	10,100
	43	H51	0.18517	1,219,400	225,800			52,500	9,700
	44	H52	0.17805	1,219,400	217,100			52,500	9,300
	45	H53	0.17120	1,219,400	208,800			52,500	9,000
	46	H54	0.16461	1,219,400	200,700			52,500	8,600
	47	H55	0.15828	1,219,400	193,000			52,500	8,300
	48	H56	0.15219	1,219,400	185,600			52,500	8,000
	49	H57	0.14634	1,219,400	178,400			52,500	7,700
	50	H58	0.14071	1,219,400	171,600			52,500	7,400
	51	H59	0.13530	1,219,400	165,000			52,500	7,100
	計				15,051,000	12,500,000	10,315,400	2,100,000	674,900
	拡張便益				6,912,300				
合計				21,963,300					



総便益B 21,963,300 千円

総事業費C 10,990,300 千円

B/C= 2.0

費用対効果計算書

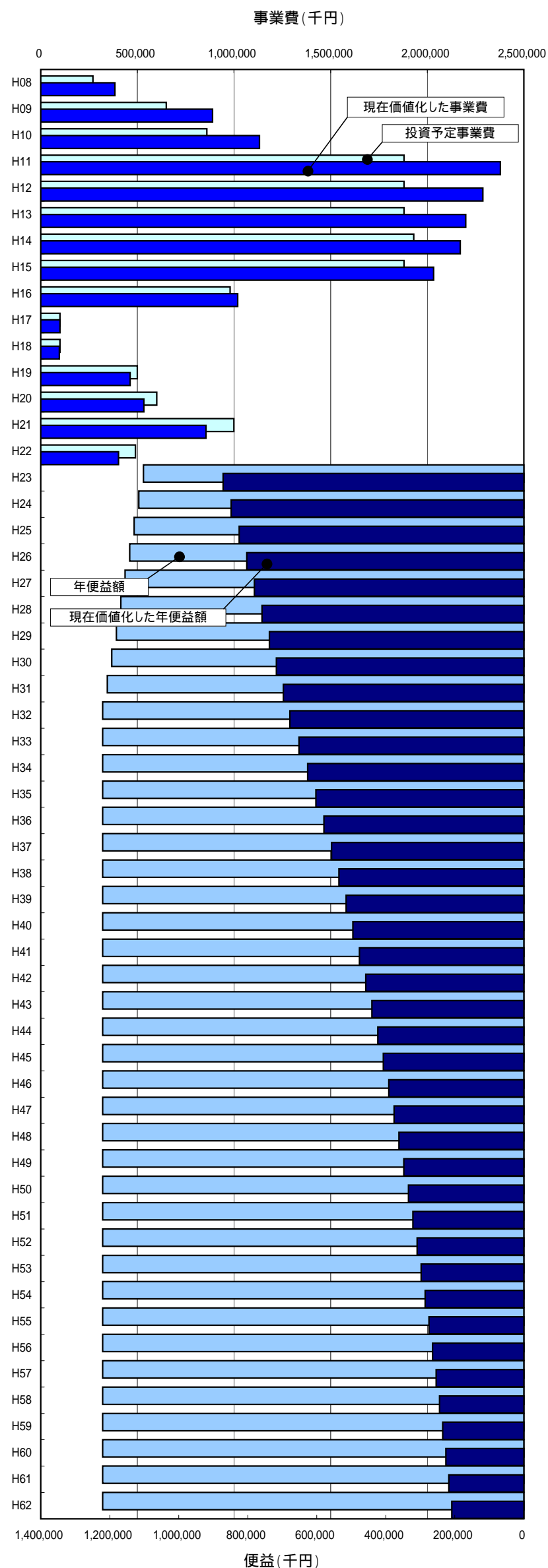
(平成17年度評価)

路線名:一般国道106号

地区名:築川道路

単位:千円

期間	年度	現在価値割引率	便益		費用				
			便益額	現在価値	建設費		維持管理費		
					費用	現在価値	費用	現在価値	
整備期間	-9	H08	1.42331			270,000	384,300		
	-8	H09	1.36857			650,000	889,600		
	-7	H10	1.31593			860,000	1,131,700		
	-6	H11	1.26532			1,880,000	2,378,800		
	-5	H12	1.21665			1,880,000	2,287,300		
	-4	H13	1.16986			1,880,000	2,199,300		
	-3	H14	1.12486			1,930,000	2,171,000		
	-2	H15	1.08160			1,880,000	2,033,400		
	-1	H16	1.04000			980,000	1,019,200		
	0	H17	1.00000			100,000	100,000		
	1	H18	0.96154			100,000	96,200		
	2	H19	0.92456			500,000	462,300		
	3	H20	0.88900			600,000	533,400		
	4	H21	0.85480			1,000,000	854,800		
	5	H22	0.82193			490,000	402,700		
施設完成後の評価期間 40年	6	H23	0.79031	1,102,600	871,400			52,500	41,500
	7	H24	0.75992	1,116,000	848,100			52,500	39,900
	8	H25	0.73069	1,129,100	825,000			52,500	38,400
	9	H26	0.70259	1,142,400	802,600			52,500	36,900
	10	H27	0.67556	1,155,500	780,600			52,500	35,500
	11	H28	0.64958	1,167,600	758,500			52,500	34,100
	12	H29	0.62460	1,180,900	737,600			52,500	32,800
	13	H30	0.60057	1,194,100	717,100			52,500	31,500
	14	H31	0.57748	1,207,200	697,100			52,500	30,300
	15	H32	0.55526	1,220,600	677,800			52,500	29,200
	16	H33	0.53391	1,220,600	651,700			52,500	28,000
	17	H34	0.51337	1,220,600	626,600			52,500	27,000
	18	H35	0.49363	1,220,600	602,500			52,500	25,900
	19	H36	0.47464	1,220,600	579,300			52,500	24,900
	20	H37	0.45639	1,220,600	557,100			52,500	24,000
	21	H38	0.43883	1,220,600	535,600			52,500	23,000
	22	H39	0.42196	1,220,600	515,000			52,500	22,200
	23	H40	0.40573	1,220,600	495,200			52,500	21,300
	24	H41	0.39012	1,220,600	476,200			52,500	20,500
	25	H42	0.37512	1,220,600	457,900			52,500	19,700
	26	H43	0.36069	1,220,600	440,300			52,500	18,900
	27	H44	0.34682	1,220,600	423,300			52,500	18,200
	28	H45	0.33348	1,220,600	407,000			52,500	17,500
	29	H46	0.32065	1,220,600	391,400			52,500	16,800
	30	H47	0.30832	1,220,600	376,300			52,500	16,200
	31	H48	0.29646	1,220,600	361,900			52,500	15,600
	32	H49	0.28506	1,220,600	347,900			52,500	15,000
	33	H50	0.27409	1,220,600	334,600			52,500	14,400
	34	H51	0.26355	1,220,600	321,700			52,500	13,800
	35	H52	0.25342	1,220,600	309,300			52,500	13,300
	36	H53	0.24367	1,220,600	297,400			52,500	12,800
	37	H54	0.23430	1,220,600	286,000			52,500	12,300
	38	H55	0.22529	1,220,600	275,000			52,500	11,800
	39	H56	0.21662	1,220,600	264,400			52,500	11,400
	40	H57	0.20829	1,220,600	254,200			52,500	10,900
41	H58	0.20028	1,220,600	244,500			52,500	10,500	
42	H59	0.19257	1,220,600	235,100			52,500	10,100	
43	H60	0.18517	1,220,600	226,000			52,500	9,700	
44	H61	0.17805	1,220,600	217,300			52,500	9,300	
45	H62	0.17120	1,220,600	209,000			52,500	9,000	
計				19,435,600	15,000,000	16,944,000	2,100,000	854,100	
拡張便益				6,912,300					
合計				26,347,900					



総便益B 26,347,900 千円

総事業費C 17,798,100 千円

B/C= 1.5